

令和5（2023）年度 四日市大学 研究テーマ一覧

<原文ママ>

(学部別・五十音順・敬称略)

学部	連番	氏名	研究テーマ	概要
総合	1	浅井 雅	近世武家社会における儒学受容 —18世紀西国諸藩を中心として—	<p>日本において近世は、あらゆる階層が初めて「教育」を受けた時代、教育対象が一気に広がった時代である。その時代に外来思想としての儒教が、儒学または漢学として広く教育に取り入れられていった。</p> <p>ただ、近世日本の儒学は、軍事の論理によって編成された武家社会では、少なくともその成立当初（17世紀前半）には、多くの藩において学ぶ必要のないものと捉えられていた。このような状況の中で儒学は、支配層である武家社会には各藩に浸透しているとは言い難く、むしろ上層庶民によって自発的に学ばれていた。しかしながら、18世紀に入る頃になると、武士が、戦時の戦闘者という本来の性格に加えて、平時の官僚という性格をも併せ持つようになり、儒者の登用や儒学による家臣団教化が行われ、儒学を取り巻く状況が大きく変化する。その代表的な例が武家社会における藩校の設立であり、この藩校は現代の中等・高等教育（高等学校や大学）につながっているものが数多く存在する。したがって、藩校は現代の教育の根本の一つと考えることができる。</p> <p>また、グローバル化の中にある現代日本においても、様々な外来思想が流入している。このような時代に生きる私たちにとって、元々近世日本の人々にとって外来思想であった儒学が日本の中で定着していき、「学問」化していく、その浸透過程を検討することは、外来思想の浸透過程の一つのパターンを解明できるという意味で有意義なことだと考えられる。よって、外来思想である儒学の最初のインパクトがどのように日本社会に浸透し、「学問」化したかを検討する。</p> <p>さらには、このように諸藩が儒学・儒者を受容することにより、当該諸地域にいか「学問」、そして都市の文化が流入したか、そのことによって当該諸地域にどのような思想的変化がもたらされたかも合わせて考察を行いたい。</p>

学部	連番	氏名	研究テーマ	概要
総合	2	岩崎 恭典	地域自治組織形成方策の検討	『YURO2021』 公共政策研究所報告に寄稿したように、急速に進む人口減少・高齢化に対応して、これまでの行政と住民との関係を大胆に見直し、自治体における、おおよそ小学校区程度の地域的まとまりについて、自治会をはじめとする様々な団体が集まり、共助の仕組みを自ら生み出していくという地域自治組織の形成方策について、本学にお世話になって以来この20年間、一貫して検討してきた。今年から来年にかけては、県外で関わっている愛知県大口町、兵庫県川西市における地域自治組織形成のノウハウを活かしつつ、三重県内でこれまで関わってきた、桑名市、鈴鹿市、亀山市、伊賀市、名張市、伊賀市、松阪市、伊勢市、東員町を主な対象として、さらに、公益財団法人ささえあいのまち創造基金の協力により、三重県、そして、四日市市、津市等に呼びかけ、それぞれの自治体職員とともに、地域の特性に合った地域自治組織の形成方策について具体的に検討し、実践交流していくこととする。特に、伊賀市においては、地域自治組織を規定する自治基本条例の見直しが予定されており、その検討過程において地域自治組織の今後のあり方をどう条例に規定するかという課題に取り組むこととしたい。さらに、各地の地域自治組織に対する個別のコンサルテーションにおいては、コミュニティビジネスへの取り組み、昨年秋に法施行された「労働者協同組合」への取り組みを、特に支援していきたい。
総合	3	岩崎 祐子	「おもてなし経営」「地域を拓く未来企業」に関する研究	平成30年度に公共政策研究所として三重県の受託調査(「三重のおもてなし経営企業選」受賞企業フォロー(調査・分析等)事業、岡先生、奥原先生、岩崎担当)をまとめることができた。ここでいう三重のおもてなし経営とは、(1)社員の意欲と能力を最大限に引き出し(2)地域・社会との関わりを大切にしながら(3)顧客にとって高付加価値で差別化された製品やサービスを提供している経営のことである。社員、地域、顧客の三者への「おもてなし」を実践することで、過度の価格競争に陥ることなく、地域において事業の継続的発展が期待できる経営のモデルと考えられる。この調査を発展させたかたちで、令和3年度からは特定プロジェクト研究として「地域を拓く未来企業」研究に着手し、企業ヒアリングを実施した。令和5年度も継続して、経営環境の変化に対応した魅力的な地域産業の発掘し、企業の特徴を明らかにする。

学部	連番	氏名	研究テーマ	概要
総合	3	岩崎 祐子	地域金融機関のビジネスモデルに関する研究	地域金融機関を取り巻く経営環境は厳しさを増している。人口の高齢化と少子化が進む地域においては、サービス業の生産性向上などの観点から経営資源の「選択と集中」が求められることになる。引き続き、本研究では、従来型の経営戦略・収益構造から新しいビジネスモデルを目指す地域金融機関について、現状を整理し今後の課題を考察する。
総合	4	岡 良浩	地域を拓く未来企業に関する研究	本研究は昨今の経営環境変化の中で、地域を拓く未来企業を発掘し、何らかのかたちで公表することを目的とした特定プロジェクト研究の3年目にあたる。本年度は、四日市市内企業のアンケート調査を実施することにより、四日市市内での未来企業の存立形態について考察したい。
総合	5	奥原 貴士	IFRS採用日本企業における開発資産の資産性に関する実証研究	本研究は、IFRS（国際財務報告基準）により資産計上されている開発費、すなわち開発資産を対象として実証分析を行う。日本では2009年からIFRSの任意適用が認められており、現在200社以上が任意適用している。これまで米国会計基準を用いていたトヨタ自動車も2021年3月期からIFRSに移行し、時価総額で見ると、東証全体の42%がIFRSを採用することになる。今後もIFRSを採用する企業は増加していくと見込まれており、IFRS採用企業の財務データを用いた研究は非常に重要となっている。IFRSによる開発費の資産計上は、経営者が資産計上要件を満たしているか否かを判断するが、利益調整のために資産計上の決定が行われている可能性がある。そこで本年度は、IFRS適用日本企業を対象として、IFRSにより資産化される開発投資が、ベンチマーク達成のための利益調整に用いられているか否かを実証的に調査する。このベンチマークには、経営者予想利益・前期利益（増益）・利益ゼロ（損失回避）などを用いる。加えて、利益調整のために資産化された疑いのある開発投資に関して、市場がどのように評価しているのかを検証するために価値関連性の分析を行う。

学部	連番	氏名	研究テーマ	概要
総合	5	奥原 貴士	組織再編成功企業の財務特性－のれんと財務特性に着目した実証分析－	<p>本研究の目的は、M&Aや子会社化などの組織再編によりのれんを計上した企業のその後の将来業績と、企業の財務特性との関係を明らかにすることである。そして、のれんと将来業績との関係に着目し、組織再編前後の財務特性が将来業績に及ぼす影響を調査するために実証分析を行う。すなわち、組織再編やその後の追加投資に関して、どのような財務特性をもつ企業が効率的な投資を行っているのか、逆にどのような財務特性をもつ企業だと非効率的な投資を行ってしまうのかということを検証する。そして、組織再編前後の財務特性が将来業績に及ぼす影響に関して業種別の比較を行う。組織再編と追加投資に関して、効率的な投資を行っている業種、非効率的な投資を行っている業種を明らかにすることが本分析の目的である。昨年度は、企業の財務報告の品質が組織再編投資の効率性に影響を及ぼしていることを明らかにした。続いて本年度は、財務報告の品質に関して複数の指標を用いて財務報告の品質が組織再編投資の効率性に及ぼす影響を検証する。</p>

学部	連番	氏名	研究テーマ	概要
総合	6	加納 光	「李儼と三上義夫の書簡の研究」プロジェクト ～日中交流史の視点から～	<p>李儼（1892～1963、中国の数学史家）と三上義夫（1875～1950、日本数学史家）は、今日の東アジア数学史を含む「東アジア科学史」の分野において大きな功績を残している。東アジア数学史・科学史の研究に関し、両者は1914年から1937年までの間、45通もの書簡のやり取りしている。李儼が三上に送った書簡は藤井貞雄氏により発見され、現在広島県安芸市教育委員会に保存されている。その書簡の研究を通し、日中間の文化交流史の一面を明らかにしたい。具体的な研究スケジュールは次のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 書簡の存在を公表する。（済） 2011年9月に「第5回東アジア科学技術古典国際シンポジウム」で吉山青翔氏によって、口頭発表。 2. 書簡の解読 <ol style="list-style-type: none"> 1) 全体的な解読（済） 2) プロジェクト関係者による、詳細な検討。いまだ解読のできない箇所を共同で行う。2021年度に行う予定であったが、新型コロナの感染拡大によって実現できず、2022年度も新型コロナの感染状況を見極めながら、対面により行う予定であったが関係者による対面作業が実施できなかった。これをうけ、2023年度は、①未解読部分の解読 ②な要の注釈・翻訳 ③日本語の翻訳と並行して以下の3. ～7. を実施する。 3. 難解箇所の注釈作業 4. 中国側の『科学史資料研究』への投稿 5. 日本語訳・注釈を完成させ、日本側の『数学史研究』への投稿 6. 中国現地（中国科学院自然科学史研究所など）で李儼に関する資料の調査 7. その資料をリストにして日本側で発表する

学部	連番	氏名	研究テーマ	概要
総合	7	川崎 綾子	組織間信頼の形成過程－製造業の系列と、小売業の比較－	<p>今年度は、小売業の組織間信頼に関して、製造業との比較研究を行う。具体的には「地域ジャスコ」の組織体制と信頼形成の関係に注目し、製造業の「系列」と比較する。地域ジャスコについては、インタビューや社史を基に分析する。現代のイオンは、ゆるやかな連帯を特徴とする「連邦制経営」であるといわれる。この形態は、ジャスコ時代に端を発するものである。本研究では、こうした連邦制経営の見受けられる「地域ジャスコ」について分析する。ジャスコには、多様な地域企業との合併を通して成長してきた歴史がある。しかしジャスコの合併は、相手企業を丸め込むような形での合併ではなく、相手企業の特性を生かした、信頼ベースの合併であった。本研究ではジャスコが、山陽ジャスコのような「地域ジャスコ」に対して、いかなる点で自律性を付与し、地域ジャスコとの信頼関係を醸成していったのかに注目する。また地域ジャスコが、地方金融機関といった「地元組織」と、いかなる信頼関係にあったのかという点にも焦点を当てる。製造業の「系列」は、高度な信頼に基づく組織間関係であるとされる。本研究ではこうした系列の組織間信頼と、地域ジャスコ方式における組織間信頼を比較することで、多様な産業の企業に通じる「組織間信頼の形成方法」を探求する。</p>
総合	8	倉田 英司	歴史的まちなみ整備における文化財保存と生活環境の両立に関する研究	<p>現在では、全国各地で地域の歴史や文化を活かしたまちづくりが行われており、「歴史的まちなみ整備」もその一つである。歴史的まちなみ整備の対象は、建造物保存だけでなく、建造物の外観また利用方法、住民らの意識や生活環境など多岐にわたる。したがって、地区内の実情に応じた整備が求められる。特に、文化財的な目線からの整備内容の検討だけでなく、生活環境等の人々の暮らしとの関係性など、地区ごとに異なる課題について、総合的に判断した上で整備目標を設定することが必要である。各地区の整備目標は、今後も多様化していくものと考えられ、現場における整備内容もさらなる複雑化が予想される。本研究では、全国の歴史的まちなみ整備の運用事例に関する分析から、文化財保存・生活環境の両立を反映出来るような「しくみづくり」の検討を行う。</p>

学部	連番	氏名	研究テーマ	概要
総合	9	小泉 大亮	地域型運動グループの推進に関する研究	高齢期においても健康維持・増進のために運動の実践が推奨されている。健康維持を目的とした運動は、長期にわたり継続的に実践することや仲間と一緒に実践することが鍵となっている。数年にわたり高齢者グループに地域型運動を指導している高齢指導者やその参加者を対象にアンケートや聞き取りによる調査を実施し、地域型運動推進に向けたグループの育成に関して研究する。
総合	10	小林 慶太郎	地方自治体におけるセクシュアルマイノリティ政策の導入と展開	日本では、近年、LGBTとしばしば総称されるセクシュアルマイノリティへの対応が政策課題として認識されつつある。 本学が立地する三重県においても2021年3月に「性の多様性を認め合い、誰もが安心して暮らせる三重県づくり条例」が制定され、また、四日市市においても「多様な性のあり方を知って適切に対応するための職員対応要領」の策定が進められている。 しかしながら独自の取り組みを始めた自治体はまだ少数にとどまり、多くの自治体では、手探りの状態であったり、あるいはまったく検討もしていない状態であったりしている。また、トランスジェンダーの権利を認めると女性の安全が脅かされるようになる等のバックラッシュともいえる言説が出回るなど、施策の推進に反対する動きも見られるようになってきた。 そこで、一部の自治体で既に始められている施策の内容や導入過程を明らかにし、今後の全国各地の自治体へのその展開を展望したいと考えている。
総合	10	小林 慶太郎	基礎的自治体におけるミニ・パブリックス導入の課題と可能性	近年、無作為抽出した市民による「ミニ・パブリックス」といわれる手法によって、民意を捉えていこうとする取り組みが、散見される。無作為抽出で参加者が決められることから、代表制民主主義に対して「くじ引き民主主義」などとも呼ばれ、こうした動きは注目されつつある。 しかしながら、こうした取り組みには多くのコストが掛かることもあり、ルーティン化されることはなく単発の社会実験的な取り組みで終わってしまうことが多く、そこで把握された民意が政策にダイレクトに反映されることも少ない。 一方で、愛知県岩倉市のように、ミニ・パブリックスを条例で位置づけ公的な取り組みとして導入していく基礎的自治体も現われ始めた。 そこで、こうした条例によるミニ・パブリックスの導入や、その政策への影響、運営上の課題などを整理し、今後の普及・定着の可能性を展望したいと考えている。

学部	連番	氏名	研究テーマ	概要
総合	10	小林 慶太郎	食による地域振興の可能性と課題	<p>近年、食関連産業による地域振興が注目を浴びている。たとえば三重県では、食関連産業を「本県にとって今後の成長が期待できる分野」と位置づけ、2015年に『みえ食の産業振興ビジョン』を策定し、支援施策を集中的に展開している。</p> <p>また同県のインターネットサイトによれば、2021年の「観光実態調査」では、「自然や風景を見てまわる」36.9%、「おいしいものを食べる」31.9%が三重県を訪れる上位の目的となっており、三重県の「食」は観光資源として魅力度が高い状態にあるという。さらに食は、食文化という観点からも着目され、地域アイデンティティとも結びつきやすい。</p> <p>本年、四日市市において開催されるご当地グルメによるまちおこしの祭典「東海・北陸B-1グランプリin四日市」も、こうした食による地域振興の取組みと言える。</p> <p>そこで、このように様々な観点から注目される食による地域振興を取り上げ、その可能性と成果及び課題を整理し、その政策としての今後の展開の可能性を検討したい。</p>
総合	11	高田 晴美	文学的聖地巡礼とクリエイティブツーリズム	<p>岡本かの子作品にしばしば描かれる〈川〉〈河〉が持つ意味合いとそれが作者本人の本質とどうかかわるかについて、「川」「河あかり」「生々流転」などを分析することで考察し、「岡本かの子の〈川〉—多摩川、東京下町の川、そしてフィレンツェ」（友原義彦編著『クリエイティブツーリズム—「あの人」に会いに行く旅』2022年12月）にまとめた。その後、岡本かの子以外の文学作品も含めて、文学作品を契機としたいいわゆる〈聖地巡礼〉的な旅の実体験を検証することで、人にとってどのような旅先が〈サードエリア〉になりうるかの考察を行った。これに関する論考については、「〈聖地巡礼〉のその先に見つける私のサードエリア」にまとめ、『月間地理』2023年6月号に掲載予定である。</p>
総合	11	高田 晴美	近年のライトノベル〈異世界転生〉物の流行について	<p>近年のライトノベルでは、〈異世界転生〉物が大流行し、特に小説投稿サイトでは皆がその枠組みにのった上での亜流の生産がおびただしくなされている。若者はなぜ〈異世界転生〉物に心惹かれるのか。流行とその変遷を、時代状況や社会状況とも照らし合わせながら考察する。</p>
総合	12	鶴田 利恵	東アジアにおける自由貿易協定や地域連携協定の今後	<p>昨年度に引き続き、東アジアにおける自由貿易協定や地域連携協定の動向とその過程における日本の役割を考察するとともに、ロシアのウクライナ進軍が東アジアのメガFTAに与える影響について分析を行う。</p>

学部	連番	氏名	研究テーマ	概要
総合	13	富田 与	プーチン演説のナラティブの構造	「ウクライナ紛争の発生に関する考察」の延長で、プーチン演説に見られる特別軍事作戦の正当化を巡るナラティブの構造を分析する。
総合	13	富田 与	戦争の記憶と表象	「戦後日本における表現の自由と戦争画」の延長で、ギンズブルクの公的記憶と私的記憶に関する指摘を手掛かりに戦争表象の扱いの差異に関しを進める。
総合	13	富田 与	麻薬対策における戦争のメタファー	「米州における麻薬対策のメタファー」の継続で、「麻薬戦争」という表現に焦点を絞ることとした。
総合	14	永井 博	中島敦「文字禍」論	研究テーマに沿い、「『李陵』と『戦陣訓』——李陵を中心に——」（「リーラー」第9号・2015年11月）、「丹羽文雄『戦陣訓』の歌」論——丹羽文雄と戦争・6——」（「四日市大学論集」第32巻第2号・2020年3月）、「『戦陣訓』論——その1・閉じられたことばの世界——」（「四日市大学論集」第33巻第2号・2021年3月）と書いてきた続きの論考である。
総合	15	中西 紀夫	集団的自衛権についての再考 ～憲法改正は必要か～	本年度の研究テーマは、2016年3月発行の紀要に掲載した、「集団的自衛権についての一考察 ～憲法改正は必要なのか～」の再考である。これまでの集団的自衛権の解釈変更は、有事の際にPKOにより自衛隊の海外派兵や、日米安保条約に基づき、日本が侵略を受けた際に日米の共同対処に不十分であることを考えると、やむを得ないのではないかとも思える。しかしながら、憲法との関係では矛盾しないかという問題があり検討を深めた。今回の研究では、その視点に加え前年度から研究している「非核三原則についての一考察」を踏まえたうえで、ウクライナ戦争による日本政府や諸外国の動きなども視野に入れて考える必要があるため再考することにした。

学部	連番	氏名	研究テーマ	概要
総合	16	Felipe Ferrari	精神の作用としての意識現象： 西田幾多郎とアンリ・ベルクソンの比較思想	<p>アンリ・ベルグソンによると、二つの気体の化合から液体が生じるのと同じように、拡がり意識の中で、感覚と空間の結合によって行われる。空間も感覚も拡がりを持たないが、その拡がり両者の結合の本質的な特徴である。しかし、その結合からどのように拡がり（あるいは強さ）が生じるのか。ベルクソンによると、それは意識の働き、すなわち、精神の作用 [acte de l' esprit] のみに生み出す。二つの感覚を同時に知覚する場合にも、精神の作用はそれらを空間の中で異なる場所に置き、我々はそれらを区別できるようになる。それゆえ、空間そのものは属性が全くない。それは感覚が有る唯等質的環境 [milieu homogène] のみである。</p> <p>動物は空間と違う関係がある。動物は生まれつきの方向感によって--例えば、鳥はいつも巣に戻ることができる--空間が外的なものとしてではなく、自分自身の体が空間の一部--すなわち、空間の中に存在するもの--として世界を認識するように見える。一方、動物にとっては、感覚は空間と類似である--例えば、犬は椅子と椅子が存在する空間を区別できない--他方、人間にとっては、空間は外的なものとして考えられており、空間とそれに存在するものの区別は明らかである。それにもかかわらず、ベルクソンによると、動物は人間が理解できないある特別な感覚を持っているという意味ではない。それどころか、人間は等質的環境として空間を認識するが、動物は感覚と空間を同じように認識し、空間とそれに存在するものを区別できない。意識は二つの異なる実在として空間という等質的環境と感覚を認識する。人間のみが知性を持っているので、動物はその精神の作用をすることができない。</p> <p>令和5年度の研究の目的は西田幾多郎における「意識現象」とベルクソンにおける「精神の作用」を比較することである。</p>

学部	連番	氏名	研究テーマ	概要
総合	17	本部 賢一	新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5類感染症に変更された後のオンデマンド型講義のあり方に関する研究	<p>令和5年5月8日（月曜日）より新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5類感染症に変更となった。それに伴い、大学における講義形式は、感染予防対策を継続しつつも基本的にオンデマンド型から対面型へと変更されることとなった。</p> <p>ほとんどの講義が対面型へと切り替わる中、一部の講義は諸事情からオンデマンド型のまま残されるという状況となり、ここ数年のオンデマンド型講義に慣れてしまっていた学生たちにとって、なかなか対応しきれないというのが本音であろう。</p> <p>私の担当している講義もオンデマンド型のまま実施せざるを得なかったのであるが、ここ数カ月講義を行う中で、これまで気付かなかったオンデマンド型講義の問題点が判明した。当該講義の受講の流れは次の通りである。まず教育支援システムMoodle上に用意されたコース画面にアクセスし、そこに用意されたオンデマンドビデオのリンクボタンをクリックすることでMicrosoft Stream上にアップロードされた講義ビデオにアクセスしてビデオを視聴する。同時に、Moodle上に用意された講義プリントのPDFファイルを印刷し、プリントに書き込む形で講義ノートを取る。そして講義の最後に、習熟度を図るため、Moodle上に用意されたミニテストのPDFファイルを印刷し、それに解答を記述し、レポートとして教員に提出する…という流れである。</p> <p>学生には、時間内にビデオを見てノートを取り、ミニテストレポートを完成させるというスタイルで受講するよう推奨し、第1講のガイダンスで案内するとともに、Moodleコース画面上に「出欠」ボタンを用意し、時間内に押さないと出席（遅刻を含む）とならないようなシステムを構築した。一方、欠席者へのフォローを考慮し、ビデオは講義開始直後から全講義終了まで、いつでも何回でも視聴できるようにし、ミニテストレポートの提出締め切りは1週間後と設定した。そのためか、Streamではビデオの視聴者数の数値が画面に表示されるので、講義終了時刻にチェックした数値と出欠ボタンのクリック数を比較することで『学生の多くが出欠ボタンを押すだけで、時間内に作業を行っていない』という事実が判明した。確かに、いつでも好きな時にビデオを視聴できることがオンデマンド型の利点であるが、その利点を逆手に取り、『空き時間や夜中に授業を受ける』といった時間割も何も無関係な自分時間の生活スタイルに、ここ数年の間で多くの学生が慣れてしまったようである。対面型の授業は時間割通りに行われ、1回限りしか教員の話聞くことはできない。ましてや社会にでたら相手の時間に合わせるのが当たり前で、自分時間で社会を生き抜くことはできない。だからこそ一刻も早く、そうした生活スタイル、考え方を改めるためにも、その第一歩として、どうしたらオンデマンド型の当該講義を対面型講義と同様に受講してもらえるようになるのか、受講者の動向を分析するとともに、改善策を検討することが本研究の目的である。</p>

学部	連番	氏名	研究テーマ	概要
総合	18	三田 泰雅	地方都市における家族形成	地方の産業都市における少子化の背景を明らかにするため、未婚化と少産化につながる要因を検討する。産業都市として三重県四日市市を事例に、住民を対象とした質問紙調査を実施する。
総合	19	吉川 和挟	政策目的リフレーミングがもたらす「政策目的の複雑化」を統制する方法に関する研究	本研究では「リフレーミング」がもたらす政策目的の複雑化に対処するため、法目的の合理性を裏付ける「立法事実」研究を応用することで、政策実務の場で応用可能なリフレーミング指針を構想する。リフレーミングは、政策目的に関する情報の提示方法を変更することで市民からの支持や受容を引き出しうる政策技術である一方、政策における目的・手段関係を複雑化させ、政策実務の混乱や市民からの予見可能性を低下させるなどの問題を有している。この政策目的の複雑化がもたらしうる問題は、政策担当者の「下位目的の内面化」のような問題から、「本来、規制されるべきでない事業の規制の正当化」などの個人の権利にかかわる問題まで多岐にわたる。これに対し、現在の政策研究は「所与の問題と目的に対する解決策（政策手段）の提供」を目的としているため、そもそも目的そのものの考慮が行えず、リフレーミングの有する問題点への解決策を提供できない。そこで行政法学における立法事実論を応用し、政策目的をリフレーミングする際に「いかなる目的であれば事実に照らして合理性を保てるか」を明らかにする。これにより政策実務に応用可能なリフレーミング方針を提示する。
総合	19	吉川 和挟	「政策デザイナー」概念の明確化に関する研究	本研究の目的は、海外では政策研究の主要な位置を占める「政策デザイン論」の領域における「政策デザイナー」概念の明確化を行い、政策づくりに参画する政策アクターたちがデザイナーとしていかなる知識を提供し、いかなる役割を担っているのかを検討することである。例えばリボルビングドア式の式の人事制度を有する米国などにおいては、政策づくりに必要な知識を有する専門家が行政の内外を問わず政策デザイナーとして参画することが知られているものの、日本においては公務員主導の政策づくりが主であり、そこに参画する公務員以外の主体（市民団体や民間企業など）がいかなる役割を担っているのかについて明らかにされていない。そこで本研究ではそもそも政策づくりに携わる政策デザイナー概念そのものや、デザイナーが有する必要がある知識について明確化し、日本の政策過程に参画する各種アクターを公共政策研究の文脈中に位置づける。この検討によって、ある種属人的な能力として機能していた政策策定能力を「専門知識化」するための基礎を提供する。

学部	連番	氏名	研究テーマ	概要
総合	20	Gordon Rees	Cooperative Learning: What are literature circles and can they be used in EFL reading classes?	<p>In my 20+ years experience of teaching university-level EFL courses I have noticed that students seem to learn best when they get deeply involved in learning through interaction with their classmates. A student is more likely to remember something they discover through active participation and peer work than by listening passively to a lecture given by me. This research seeks to examine how literature circles can promote cooperative learning in an EFL reading class. One purported benefit of literature circles is that they provide learners with the opportunity to practice the target language in a practical way. When implemented in EFL classes, they contribute to developing communicative competencies in a second language, as well as skills like writing, spelling, and listening comprehension (Bedel, 2016; Kim, 2003). I will first do a literature review of research articles on literature circles and cooperative learning to better understand the subject matter. I will then design and implement a literature circle in a second semester EFL reading course. At the end of the course I will survey students to gauge the effect that participation in the literature circle had on them. I hope to compare results from the survey to first semester survey results where reading circles were not used to determine the effects literature circle participation had on, among other things, retention, autonomous learning, individual learning, speaking confidence and comprehension of texts.</p>

学部	連番	氏名	研究テーマ	概要
総合	20	Gordon Rees	What is Living Newspaper Readers Theatre and can it be used effectively in oral presentation classes?	<p>In general, Japanese EFL students tend to be shy and are hesitant to speak expressively when making speeches or presentations in front of an audience. Living Newspaper Readers Theatre is a performance of a script stitched together by selecting topically-related news articles. When merged with Readers Theatre (“a style of theatrical performance in which actors may read from the script or text, and which places less emphasis on props, costumes, physical interaction, etc., than traditional theatre,” Oxford dictionary), it takes contemporary news and information and puts it together into a cohesive script that students perform for an audience. In this research I will first do a literature review of research articles on Living Newspaper and LNRT to understand the subject matter better. I will then attempt to implement a LNRT project in an advanced oral presentation class. Because of the group work involved in LNRT it is hoped that this activity will help create a non-threatening classroom environment which will encourage students to practice expressive speech and increase their confidence for speaking expressively in front of others. Students will be surveyed at the end of the project to gauge their reactions to participation in the project and an attempt will be made to measure changes in confidence level and improvement in basic presentation skills. This is a research project I started last year but was unable to finish due to sickness.</p>

学部	連番	氏名	研究テーマ	概要
総合	21	若山 裕晃	アメリカ野球MLB球団におけるメンタルトレーニング指導の実態調査	<p>アスリートの競技力向上を目的としてスポーツ心理学者が競技現場でメンタルトレーニングを指導することが日本のスポーツ界でも浸透し始めている。本年度の研究では、日本で最もポピュラーなスポーツの一つである野球競技におけるスポーツ心理学者の活動状況について、これまでの経緯に踏まえさらに進める考えである。</p> <p>2016年9月、筆者は、あるメジャーリーグ球団のアリゾナ秋季教育リーグを視察した。ここでは、シーズンを終えたばかりのマイナーリーグの選手やコーチたちが、大小8面ほどのグラウンドやバッティングケージで黙々と練習に励み、日々の練習メニューの中に、技術やフィジカルのトレーニングと同様にメンタルトレーニングのセッションが設けられていた。それ以来、マイナーチームのメンタルトレーニング指導を担当する専属の2名スポーツ心理学者と交流を続け、2018年3月には、スプリングトレーニング時のマイナー選手への講義とエクササイズ形式でのメンタルトレーニング指導を視察し、筆者自身もそのプログラムを体験した。同年12月には、チームビルディングプログラムの手法についてレクチャーを受けた。この球団は、2015年からメジャーとマイナーにメンタルトレーニング指導者を雇用しており、マイナーチーム担当の彼らは、シーズン中傘下のマイナー6チームを巡回して活動している。2023年3月には、5年ぶりにスプリングトレーニングを視察し、彼ら以外にも他球団のスポーツ心理学者たちから情報収集することができた。この訪問によってアメリカでも球団によってスポーツ心理学者の雇用形態やチームでの地位が様々であることが明らかになった。このようなアメリカ野球界におけるメンタルトレーニングに関する情報は、日本の野球界においてほとんど知られていない。本年度の研究では、3月の訪問で交流を持てたスポーツ心理学者たちからの情報収集をリモートインタビューを定期的実施し、昨年レギュラーシーズンの試合がすべて中止とな継続し、直接訪問する機会も設け選手・スタッフに対するメンタルトレーニングの指導内容について調査を実施する。</p> <p>(参考文献)</p> <p>若山裕晃 (2017) 日米野球界におけるメンタルトレーニング事情に関する予備的調査. 四日市大学総合政策学部論集、第16巻 第2号、57-62.</p> <p>若山裕晃・渡辺英児(2017). 野球メンタル強化メソッド. 実業之日本社.</p>

学部	連番	氏名	研究テーマ	概要
環境	22	青木 陽子	外国人労働者と日本の出入国管理制度	1990年の「出入国管理及び難民認定法」改正以降、四日市市をはじめ東海地域には、「ニューカマー」と呼ばれる南米日系人をはじめとする外国人住民が多数居住することになり、さらに、近年では、「特定技能」の在留資格も新設され、家族の帯同も可能な在留資格のもと、日本は本格的に外国人を「労働者」として受け入れる段階に入ってきている。このように出入国管理制度の改正により、日本で働く外国人の国籍構成や在留実態はますます多様化している中で、日本の諸制度等がどのような影響を与えているのか、行政の視点、外国人住民の視点、外国人支援組織の視点などから、多角的に問題をとらえ分析を行う。
環境	23	足立 明信	音場制御、アクティブノイズキャンセリング、機械学習を用いた異音検知、欠損信号の推定など	音響とソフトウェア開発の2つの実務キャリアで得た「あったらいいな・できたらいいな」というアイデアを具現化していく。音場制御やアクティブノイズキャンセリングは、大規模なコンサートやイベントにおけるオーディエンスエリアの均一な音環境の実現や騒音問題の解決を目指す研究である。物理現象である音の振る舞いとデジタル信号処理の知識、実務で求められる条件への理解を基に、実用的な成果を目指した研究を行う。アクティブノイズキャンセリングは、コンサート等の現場のみならず、一般的な生活環境の改善でも活用可能である。また、機械学習を活用した時系列データの異常検知や音声信号の自動補正、歪んだ音声信号の元の音声信号推定などの研究にも取り組む。これらは古い録音のノイズ除去や、不要な残響の除去といった活用にもつながる研究となる。

学部	連番	氏名	研究テーマ	概要
環境	24	池田 幹男	Moodle用タイピング練習モジュールの制作	オンラインでの授業のための e-Learning 用システムとして Moodle がある。Moodle は e-Learning 用として最も広く使用されているものの一つである。また、キーボードを注視することなくタイピングするタッチタイピングは、コンピュータを快適に使用するために必要となる従業な技能である。Moodle 用にもタイピング練習用のモジュールである Mootyper があるが、機能が不十分であるうえに使いにくく、日本語向きではない。本研究では、Mootyper よりも高機能で、設定が容易で日本語向きのタイピング練習モジュールを作成する。第一歩として、JavaScript とHTMLで単独で動作するタイピング練習プログラムを作成する。その後、Moodle のモジュールとして組み込めるように練習用文章を入力してデータベースに登録する PHP プログラムを作成する。最後に最初に作成した HTML を PHP プログラムに変更し、データベースに登録された文章を読み込んでJavaScript プログラムに渡し、プログラムから練習結果をサーバーに送り返し、フィードバックや得点とすることができるようにする。
環境	25	大八木 麻希	岐阜市内の用水路に生息する二枚貝の種組成と水質・堆積物の特性	岐阜市内の用水路及び河川の二枚貝の生息について、都市域と自然豊かな地域において種組成に顕著な違いが認められた地点10地点について、本研究では、水質分析と堆積物分析を実施し、生息環境にどの程度影響を与えているのかを明らかにすることを目的とした。
環境	25	大八木 麻希	名古屋市内のため池が高pHである要因の考察	名古屋市緑区内に位置する4つのため池（水主ヶ池，東池，大池，二ノ池）はいずれも年間を通じてpHが高い値を示す傾向が認められている。特に夏季においてはpH10を超えており，名古屋市内の他のため池と比較して顕著に高い値を示していることが分かっている。そこで，本研究ではこれらのため池の水質調査を毎月実施し，それぞれの池が高いpHを示す要因について明らかにすることを目的とし調査を実施する。
環境	26	片山 清和	AIによる食品売上予測	SDGsの目標2「飢餓をゼロに」を達成するために、食品ロス削減を目差し、AIによって翌日の食品売上予測を試みている。本研究では、過去の食品売上データだけでなく、他のデータも加えることで予測精度の向上を目指している。

学部	連番	氏名	研究テーマ	概要
環境	27	鬼頭 浩文	災害支援体制の持続と、地域防災に中高大生が貢献する仕組みの地域社会への実装	<ul style="list-style-type: none"> ・三重県と連携して2022年度に立ち上げた、三重の防災に学生が貢献する仕組みを継続 ・四日市市と連携して、学生が支援物資ロジスティクスに貢献する仕組みを構築する ・四日市市消防本部と連携して構築した避難所運営に学生が貢献する仕組みをブラッシュアップ ・社協と連携して設置した学生が災害ボランティアセンター運営に貢献する仕組みをブラッシュアップ 以上の研究を通して、県市町の地域防災計画、四日市市内各地域の地区防災計画、四日市大学事業継続計画に成果を反映させ、実効性を確保するための訓練を実現していきたい。
環境	28	黒田 淳哉	舞台における光の方向や角度の違いが観客に与える心理的影響	日本における舞台の照明デザインには核となる原則があり、それは世代を超えて受け継がれてきた。照明デザイナーによる演出設計は、基本原則に加え、自らの感覚から生まれたアイデアに基づいて光の効果を選択しデザインを構築していく。その感覚からもたらされる照明デザインは、デザイナー独自の理論から生み出されるため、照明デザインは十人十色の照明理論とデザインが存在する。照明デザイナーは観客の感情を考慮して照明設計を行うが、その設計に紐づけられるのはあくまでも自身の感覚である。そこで、個人の感覚ではなく客観的データから照明デザインのアプローチを行う材料を得るため、舞台照明の基礎となるいくつかの照明配置から物を照らし、その物を見た観客がどのような印象を受けるのかについて印象評価実験を行い、結果をもとに照明の方向や角度の違いが観客に与える影響について考察を行う。
環境	29	田中 伊知郎	樹上生活していた人類祖先の行動の解明	樹上生活していた人類祖先と共通する霊長類を対象に行動分析を終え、使用したイタリア製ソフトウェアについて、東京の代理店を経て、掲載許可を得て、現在、海外の英文学術誌に投稿査読中である。

学部	連番	氏名	研究テーマ	概要
環境	30	千葉 賢	伊勢湾の海洋ゴミの研究	<p>海洋ゴミに関する過去5年間の研究内容と令和5年度の研究テーマは次の通り。</p> <p>平成29年度：三重県と共同で答志島奈佐の浜にカメラを設置して漂着ゴミの観測を行った。コンピュータモデルで同年の台風21号通過時の再現計算を行い、漂着ゴミの発生源が宮川であることを明らかにした。</p> <p>平成30年度：三重県と共同で奈佐の浜と宮川河口の宮川大橋にカメラを設置して漂流漂着ゴミの観測を行った。また、衛星画像、ドローン空撮画像、目視調査の3種類で、宮川流域からのゴミの発生量を推定した。コンピュータモデルで同年の7月豪雨時の解析を行い、漂着ゴミの発生源が長良川と木曽川であることを明らかにした。伊勢湾の海岸、海底、海面のマイクロプラスチック（以降はMP）を採取してサイズ別個数、種類別個数などを調査した。</p> <p>令和元年度：①奈佐の浜、吉崎海岸でMPの調査を進めた。②徐放性肥料プラスチックの耐候性試験を実施し、重量変化、赤外線吸収スペクトルの変化などを調べた。③海岸等で収集したMPの組成についてFTIR装置で分析し、劣化の程度を明らかにした。④伊勢湾の泥中のMPの分析を実施した。</p> <p>令和2年度：①吉崎海岸で2か月毎の定期調査を行い、MPの動態を研究した。量的変化や、FTIRによる分析を通じて、徐放性肥料プラスチックの漂着時期、漂着後の劣化状況などを検討した。②伊勢湾のマイワシの消化管内のMPの調査を始めた。ほぼ全ての個体からMPが見つかった。伊勢湾の泥の中からMPを抽出する方法についても検討した。</p> <p>令和3年度：2次MPの小片化モデルの構築、徐放性肥料プラスチックの発生源調査（三重、愛知、岐阜）、三重県流域下水道の放流水のMP調査などを行った。また、ペットボトル協議会の協力を得て、木曽川下流部の河原に散乱しているペットボトルの販売年代調査を行った。</p> <p>令和4年度：名古屋テレビの依頼を受けて藤前干潟の泥中のMPの調査を実施し、その汚染実態を明らかにした。その調査の状況が「藤前干潟のキセキ」という番組で報道された。三重県の協力を得て下水道の流入水と放流水中のMPの個数密度調査を進めるとともに、吉崎海岸の1mm以下のサイズのMPの分布調査、伊勢湾の海面のMP調査、伊勢湾北部海岸のムラサキイガイの軟体部に含まれるMPの調査、ヨコエビによるMPの小片化調査などを行った。</p> <p>令和5年度（計画）：藤前干潟の泥中のMPのサンプル分析を引き続き進めて論文化を行うとともに、伊勢湾のマイワシとカタクチイワシの体組織に含まれるMPの調査をさらに進めて、結果を社会に公表する。下水処理場のMPの調査を継続するとともに、MPの小片化モデルの論文を完成させる。</p>

学部	連番	氏名	研究テーマ	概要
環境	30	千葉 賢	貧酸素水塊発生現象を含む伊勢湾の水質の研究	<p>伊勢湾の最大の環境問題は貧酸素水塊発生現象とその長期化と考えてきたが、最近では貧栄養化や生態系の変化と衰退も大きな問題として社会に取り上げられるようになった。表層のCOD高止まり現象を含めて、これらは相互に関連した一体の問題と私は考えている。これらの現象について、三重県との共同研究を含め、検討を続けてきた。過去5年間の研究内容は次の通り。</p> <p>平成29年度：①海水中の栄養塩と有機物量の調査、有機物の分解速度、易分解・難分解有機物の分布・循環特性の検討</p> <p>平成30年度：①湾中央から湾口にかけての海洋構造、特に中層に存在する植物プランクトンの種類と分布の調査、②広域総合水質調査データの分析、特に有機物量、栄養塩量、植物プランクトンのサイズ、種の変化等のデータ整理、③簡易生態系モデルを用いた豊かな海と貧相な海の遷移の研究</p> <p>令和元年度：①湾奥から湾口にかけての海洋構造、特に植物プランクトンの種類と分布とサイズの調査、②伊勢湾の水質変化と植物プランクトンの小型化に関する研究のまとめと論文執筆。</p> <p>令和2年度：動物プランクトン、マクロベントス、メガロベントスなどの過去の論文を収集し、データを整理し、伊勢湾の生態系ピラミッドにどのような変化が生じたのかを考察し、論文を紀要に発表した。</p> <p>令和3年度：マクロベントスの全湾調査を実施して報告書にまとめた。また、これまでの研究成果を整理して、三重県の水質管理部門（大気水環境課）、下水道管理部門（県土整備部）、水産部門（水産研究所）の関係者に成果を報告した。</p> <p>令和4年度：伊勢湾の多数の測点で動物プランクトンの調査を行うとともに、過去の三重県の動物プランクトンの保存サンプルを分析して、動物プランクトンの種別の経年変化を明らかにした。また、三重県からの資金を得て、コンピュータモデルを構築し、伊勢湾の1950年代からの水質変化、生態系変化の再現を計算を実施した。予想通り、栄養塩濃度の低下に伴う植物プランクトンの小型化と、それによる基礎生産速度の増加、細胞外分泌の増加、動物プランクトンの現存量の低下などを考慮することで、近年における貧酸素水塊の悪化や、貧栄養を含む水質変化を上手く再現できることを確認した。</p> <p>令和5年度（計画）：三重県と協力して伊勢湾全湾の動物プランクトンの調査を継続するとともに、ERSEM（欧州の生態系モデル）を参考に、微生物ループを考慮したコンピュータモデルを構築して、伊勢湾の水質変化現象を検討する。これには三重県からの資金を活用する。また、植物プランクトンの小型化に関する論文と動物プランクトンの種と個体数変化に関する論文を執筆して公表する。</p>

学部	連番	氏名	研究テーマ	概要
環境	31	野呂 達哉	農業用水路（マンボ）におけるコウモリ類の生息状況とコウモリ類の生息が水質や農業に与える影響の検討	北勢地域には、地下水を集水するために江戸時代後期に掘削された「マンボ」と呼ばれる農業用水路が多数存在する。マンボにはコウモリ類が複数種生息しているが、その実態についてはよくわかっていない。コウモリ類はマンボをねぐらとして利用し、時期によっては群集を形成する。マンボ内でコウモリ類は糞尿を排泄するが、これらは水路の水に溶け込むため、多数の個体がマンボ内をねぐらとしていた場合、水質等に影響を与えている可能性がある。また、最終的にその水が流れ込む水田にとっては天然の肥料として有益な可能性がある。今回、学内の教員と共同で音声および環境DNAによるコウモリ種の同定、水質の季節的变化および水の成分からその肥料としての有用性を検討する。
環境	31	野呂 達哉	名古屋市内的におけるアカギツネ分布の変遷とその要因	名古屋市内において、2000年代までは、アカギツネの分布が北東部に限定されていた。そのため、名古屋市版レッドリストでは絶滅危惧ⅠAに指定されている。しかし、2010年代頃より、アカギツネは徐々に分布を広げ、現在では名古屋市内の都市域にまで分布を拡大している。本研究では、センサーカメラによる調査結果や目撃、交通事故死体の情報を基に過去から現在までのアカギツネの市内での分布の変遷を明らかにするとともに分布拡大の要因についてGIS等を使って明らかにすることを目的とする。
環境	32	樋口 晶子	初級英語学習者を対象としたコミュニケーション・ライティング指導における誘導的パラグラフ・ライティング指導の効果の検証	「書く力」とは多くの要素が複雑に関連しあうものであり、「書く」という作業はきわめて難しい。外国語で書く場合、当該外国語を読む力と母語の書く技能に大きく依存し、母語で書く技能に最も強い影響を与えるのは思考であると言われる。したがって、英語で書く練習は学習者の思考力を高めることが可能であるが、初級者にとって英語でパラグラフを書くことは容易ではない。学習者の心理的負担を少しでも減らすために、質問形式で行う誘導的パラグラフ・ライティング指導を行ない、指導前後の学習者の意識の変化とライティング力の変化について検証する。指導はコミュニケーション・アプローチに基づき、読み手を意識して内容に重点を置く。

学部	連番	氏名	研究テーマ	概要
環境	32	樋口 晶子	CEFR A1を想定した英語テキストの開発	日本人は英語が苦手だという通説のとおり、中学から6年間英語を学んで入学したはずの大学生で、基礎的な英語力が身につけていない学習者は少なくない。多くの大学で英語は必修科目となっており、大学生向けのテキストについていけないために英語がますます嫌いになるという悪循環も見られる。しかし、市販の初級テキストは内容が子ども向けになっているものが多く、大学生にとっては真剣に取り組むモチベーションにつながらにくい。 この状況を受け、学外英語教員と協力して、CEFR A1(英検4級程度)の大学生をターゲットとしたテキスト開発に取り組む。
環境	32	樋口 晶子	シャーリー・ジャクソン (Shirley Jackson)の “After You, My Dear Alphonse” と “Charles”に描かれる親子関係についての考察	シャーリー・ジャクソン(Shirley Jackson, 1916-1965)の「どうぞお先に、アルフォンソ殿」(“After You, My Dear Alphonse”, 1943)と「チャールズ」(“Charles”, 1948) (ともに短篇集『くじ または ジェームス・ハリスの冒険』The Lottery; or, The Adventures of James Harris, 1949)に所収)を題材に、そこに描かれる親子関係について比較・考察する。 シャーリー・ジャクソンは日常に潜む人間の醜悪な感情を描く作風で知られる。短編集『くじ または ジェームス・ハリスの冒険』は、各章のはじめに『勝ち誇るサドカイびと』(ジョーゼフ・グランヴィル)が、エピローグに「魔性の恋人 ジェームス・ハリス」(F・J チャイルド 『英蘇バラッド集』 243番)が引用されている。全作品を通じて魔術的な含みを持たせると共に、半数近くの短編に「ジェームス・ハリス氏」が悪魔の手先として登場し、登場しない作品に描かれる人間の残酷な感情にも通底する。 「チャールズ」では、幼いからこそなおさらきわだつ子どもの邪悪さと、自分の子どもを信じて疑わない両親が描かれる。「どうぞお先に、アルフォンソ殿」に描かれる、母親の明らかな人種差別感情を不思議に思う息子ジョニーとは、親と子の描かれ方が異なっている。これらの親と子の視点の違いを対比して考察する。

学部	連番	氏名	研究テーマ	概要
環境	33	廣住 豊一	竹林間伐材由来の資材を連用した農耕地における土壌物理化学性の経年変化（継続）	四日市地域は豊富な竹林資源に恵まれている。しかしその一方で管理を放棄された竹林が問題になっている。そこで放棄竹林対策の一環として、竹林間伐材を肥料化し、有用な資源として活用することを目指す取り組みが行われている。本研究課題では竹粉の利用促進をはかるため、農地に対する竹粉施与による「土づくり」効果について現地調査によって調べる。令和4年度も引き続き、三重県四日市市堂ヶ山町にある竹粉施与試験田において、田植え前(4月)および稲刈り後(9月)に土壌調査を実施する。そして、竹林間伐材から製造された粉末肥料を連用することによる農耕地土壌の物理化学性の経年的な変化について調べる。
環境	33	廣住 豊一	小型試験田を用いた緩効性肥料被覆樹脂の流出量調査（継続）	水田に散布された緩効性肥料の被覆樹脂の流出が問題となっている。しかし、その実態は明らかになっていない。本研究課題では実験ほ場に小型の試験田を造成し、ここで緩効性肥料を用いた水稲作を行うことで、水田からの被覆樹脂の流出状況について、実験的に調べる。本年度は、昨年度造成した小型試験田において水稲作を継続し、被覆樹脂流出の経年的な変化を調べる。
環境	34	前川 督雄	情報環境構造解析法の開発研究	環境から感覚系で受容する環境の情動的側面（以下、情報環境と呼ぶ）のもつ情報構造を解析し、評価する手法を開発する。情報構造のうち、その時間的空間的密度、複雑性、変容性に注目し、フラクタル次元局所指数を指標とした解析手法の開発を進めている。これまでハイパーソニック・エフェクトを導くハイパーソニック・サウンドのもつ自己相関秩序を見出した。また、テクスチャーの視覚情報構造について、縄文土器テキスチャーと弥生土器テクスチャーとの間に、フラクタル次元局所指数の値や推移における違いを見出すことができた。今年度は、時系列情報構造への展開を試行する。
環境	34	前川 督雄	人工生態系の進化シミュレーション	有限不均質な環境条件をもつ人工生態系シミュレーターSIVAを用いて、地球生態系の成熟と地球生命の進化・多様化をシミュレーションする。
環境	35	牧田 直子	湖沼に生息するプランクトンの調査研究	2021年から調査を進めているダム湖のプランクトンおよび付着藻類の分類と計数を行い、プランクトン組成の経年変化を明らかにする。また、最近再検討したプランクトン型を適用させ、ダム湖に生息するプランクトンの生産性について評価を行う。

学部	連番	氏名	研究テーマ	概要
環境	35	牧田 直子	水田に生息するプランクトンの多様性について	水田に生息するプランクトンの種類組成や多様性が水田の規模や水田の構造、整備状況に関係していると仮定し、広範囲に水田が広がる田園地帯や小規模水田、畦が土のままの水田やコンクリート舗装された水田、棚田等、様々な水田でプランクトンを採集して、実証を行う。今年度も引き続き、調査を継続し、データ収集に努める。
環境	36	柳澤 翔士	空間の響き計測及び残響再現	様々な環境におけるインパルスレスポンス(IR)を用いた残響データ計測と、実際に音作品への適用を行い、残響の再現を行う。 また、従来ステレオで行ってきたIRデータ計測から、サラウンドでのIRデータ計測を行うにあたって適切なシステム構成を探る。
環境	37	柳瀬 元志	Z世代を対象とした過去のテレビ番組を用いての視聴研究	若者の「テレビ離れ」が叫ばれて久しい。総務省の調査によると、13歳から19歳の視聴時間は2000年から2015年の15年間でおよそ3分の1近くまでに減少している。最も大きな要因は、インターネットの普及である事は間違いないが、テレビ番組の”質“自体はどうだろう。横浜にある公益財団法人 放送ライブラリーは、放送法に基づく日本唯一の放送番組専用アーカイブ施設で、過去のテレビ・ラジオ・CMなどおよそ3万本を無料公開しており、さらにこの貴重な資料を、教材・視聴覚資料としてオンラインで活用することができる。このシステムを利用し、テレビが元気だった時代に作られた作品を、Z世代と言われるテレビ離れが著しい年代の学生に見せたら、どんな反応を示すのか。また彼らをテレビ視聴に引き戻すヒントになることがあるのではないか。娯楽の主役がテレビからインターネットに移った今、過去の秀作と現在をつないでテレビのこれからを探る。

学部	連番	氏名	研究テーマ	概要
環境	38	吉山 青翔	「エコロジズム」構造の哲学的考察 ～比較環境思想史の視点から～	<p>こんにち、一般に使用されている“Ecology”という語は二つの意味を持っている、一つ目には自然科学としての生態学を、もう一つ目には社会思想としての「エコロジー」を表している。後者は近年一般的に「エコロジズム」(Ecologism)に変わっている。1866年にエルンスト・ヘンケルは“Oekologie”を提唱しており、1907年にエレン・H・リチャーズは従来使用していた“Oekology”を英語ふうの“Ecology”に綴り直した。1935年に、A. G. タンズリーによる生態系概念(ecosystem)の提唱によって、全体論的な「生態学」が誕生してきたのである。</p> <p>1960年代に入って、環境破壊の深刻化に伴い、環境保護の意識が世界的に高揚してきた。環境主義(environmentalism)や「エコロジズム」(Ecologism)等環境思想が現れてきた。</p> <p>本研究は、比較環境思想史の視点から、エコロジズムを環境主義と、概念的・構造的に検討した上で、「エコロジー」から「エコロジズム」への変遷過程を明確にすることを狙う。</p> <p>2023年度はそれまでの研究に続き、下記のいくつかの疑問点の究明を目指す：1) 社会思想としてのエコロジズムの歴史的構造、2) エコロジズムと環境主義の相違点、3) 近代環境保護運動の問題点。</p>